

令和6年9月9日
茨城県都市整備課

弘道館 9月の特別企画

【展示と解説】麻の衣「^{かたびら}帷子」の模造について

奈良県立美術館所蔵の江戸時代の帷子が、古典染織復興会議（※1）により8年の歳月をかけて模造（※2）され、同美術館において、去る7月13日から8月25日の間に「日本の伝統文化を知る江戸時代のきもの」の一部として、特別陳列されました。

この度、弘道館において下記のとおり、その模造された帷子（4領）及び伝統的な図案などを参考に制作された帷子（1領）の展示・解説を実施いたします。

つきましては、当日の取材について、ご協力をお願いいたします。

なお、取材希望の方は、事前に【取材申込受付窓口】までご連絡ください。

記

○展示期間：令和6年9月21日（土）～24日（火）
各日9時～16時

○場 所：弘道館

○解 説：各日①10時～ ②14時～（約40分）

【解説者】古典染織復興会議 中野 童男
弘道館研究員

○同時公開：水戸藩の奥医師で弘道館医学館助教として
尽力した小林元茂が拝領した「葵紋付羽織」
を同時公開（弘道館所蔵）



白麻地光琳松文様帷子（模造）

※1 茨城県城里町在住の中野童男氏を代表とする「帷子の模造プロジェクト」に携わった染織等の専門家によって結成された団体。

※2 現代の材料や手法を用いつつも、現作品の材料・手法をもとに再現したものであるため「模造」としている。

【取材申込受付窓口】

弘道館事務所 TEL：029-231-4725 担当：萩野谷・瀬戸

■問い合わせ先

弘道館事務所【取材申込受付窓口】 担当：萩野谷・瀬戸（TEL：029-231-4725）

茨城県土木部都市整備課 担当：石川・中下・岡崎（TEL：029-301-4660）

弘道館 9月の特別企画

ご案内

江戸時代の夏を彩った

展示と解説 麻の衣「帷子」の模造

＜奈良県立美術館での公開を終えて＞



白麻地光琳松文様帷子(模造)

帷子は、夏に着用される裏地のないきものうち、麻の生地で作られたものです。近代以降はあつらえることが減り、現代では帷子は希少な存在です。このような状況のなか、上質な麻布として長い伝統を誇る越後上布を用いて江戸時代の帷子を模造するプロジェクトが、古典染織復興会議・中野童男氏を中心に進められました。今回は、八年の歳月をかけて完成させた帷子五領と重要無形文化財の越後上布をご覧ください。

展示期間 **令和6年9月21日(土)**
～24日(火)
各日 9:00 ～ 16:00

展示解説 各日①10:00～②14:00～(約40分)
古典染織復興会議 中野童男
弘道館研究員

共催 古典染織復興会議・茨城県



QRコードから解説をダウンロードできます。

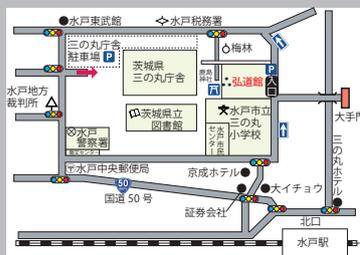
〈同時公開〉医学館助教小林元茂拝領の葵紋付羽織
水戸藩の奥医師で弘道館医学館助教として尽力した小林元茂が拝領した葵紋付羽織を同時公開します。

- 開館時間 9:00 ～ 17:00
- 観覧料 大人400円 小中学生 200円
※70歳以上は養老週間の期間中無料
養老週間：9月15日(日)～25日(水)
- アクセス JR水戸駅北口から徒歩約8分
常磐自動車道水戸ICから約30分

茨城県水戸土木事務所 借楽園公園課
弘道館事務所



〒310-0011 水戸市三の丸 1-6-29
☎029(231)4725 ✉kodokan@pref.ibaraki.lg.jp
🌐https://kodokan-ibaraki.jp/



※弘道館駐車場(13台)が満車の場合には茨城県三の丸庁舎駐車場をご利用ください。その際は必ず駐車券を弘道館料金所窓口にご提示ください。